

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(葵館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	true&ji_gyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan>true&ji_gyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により敷地内の畑を利用した、老人会や近隣の保育園児との交流が難しい状況となったため、法人敷地内にある保育園児と芋掘りを行ったり、焼き芋を一緒に楽しむなど、立地環境の利点を活かして地域とのつながりを継続できるよう努めています。また、敷地内で収穫した梅や無花果でおやつ作りをしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の敷くアメンバー経営とクレドの浸透は事業所の取組みの至る点に表れており、特に職員の主体性は年を追うごとに前進が見られ、安心感に満ちる事業所です。第三者がその成果の多くを確認できるのが、運営推進会議におけるデータと2ヶ月分の利用者の姿が写真に収められたもの、そしてその内容に寄せるメンバーの温かな応援の言葉です。七夕の短冊を嬉しそうに見せ、ゲームやフラワーアレンジメントに興じ、皆でつくった餃子をホットプレートに並べたり、茄子やヘチマの収穫、得意げに針を使いこなす指先etc.のいずれにも有用感が滲む微笑みがあり、おどけた声や高らかないざないの言葉が聞こえてきそうです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆつたり、よりそって」という法人理念を基に行動指針をクレドとして職員全員へ配布し、入職時の研修も行っている。クレドの内容を毎月の目標とかかげ、理念の共有と理解を深めている。また、人事考課制度の見直しを行い、クレドを基にした行動評価表へ変更し、職員一人ひとりがクレドを実践できて	法人理念を軸に行動指針をクレドとしています。更にクレドに基づき月間目標を定め、ブロックを積むように日々理念達成に向かうことができおり、職員が実践を振り返ることができるよう「行動評価表」も備わっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により今年度も小中学生や老人会との定期交流は中止となってしまったが、法人内の保育園との芋掘りと焼き芋を楽しむ機会を設けた。社協主催の夏休みチャレンジボランティアの受入れを行ったが、市内のコロナ感染拡大により途中中止となってしまった。	敷地内他施設の入居者が地蔵の花と水を替えに訪れ、日々挨拶を交わしています。また法人内の保育園とはコロナ禍であっても収穫した芋を焼いたり、運動会の予行演習の日があり、短時間であっても華やいだ子どもの声に包まれて過ごすことができています。	社協の夏休みチャレンジボランティアがコロナの影響で中止となっていますが、withコロナとして「動画のお便り交換」「紙芝居制作」等、今後は会わずとも可能なことを主催者と協議してみることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年では地域の専門学校の実習、中学生の職場体験学習で認知症について学んでいたたり、法人内で連携して民生委員を招いた施設見学会を行っているが、今年度もコロナ禍で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面開催を継続している。利用者の入退去他、稼働率を含めた定期的な資料の送付他、苦情や事故件数他、職員の入退職も含めて報告を行っている。	利用者の状況や運営内容をグラフや写真を用いて解りやすくメンバーに伝えることに秀でています。また運営推進会議の書面開催が続く中、「少しでもつながりを」との気持ちを込めて、写真入りの職員紹介シートも併せて届けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れをしているため、必要に応じて社会福祉課とも連携をとっている。また、虐待事例や金銭トラブルを抱えたケース等、地域包括支援センターと連携しながら対応を行っている。	更新の手続きのほか、生活保護受給者の事でも行政窓口とは日常やりとりがあり、また検査キットが20回分届いており、コロナ対策についても支援を受けています。地域包括支援センターとも近親者の虐待ケースなどで密に連携しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会開催と委員会を設置している。法人による入職時の研修他、事業所内でリモート研修の実施やケア会議での伝達研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。不適切ケアに繋がらないよう、会議録に身体拘束が疑われる事例なども掲載し、意識向上に努めている。	新しく入職した場合、速やかに法人が研修をおこなっていて、倫理・理念や身体拘束廃止に係る知識がスタート時に標準化されています。身体的拘束適正化検討委員会が定例開催されるとともに自己点検シートにも臨んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	例年、法人研修の機会を設けているが、コロナ禍により中止となっている。事業所内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で虐待事例を調べたり、リモート研修を行い虐待防止への意識を共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。社協による日常生活自立支援事業も必要に応じて活用しているが、現在の利用はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更になった際には、その都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍によりご家族の来館制限を継続している状況であるが、利用者の状態の変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡で説明を行い、意見や要望を聞くことができている。	生活保護受給者、後見人がつく人、キーパーソンが遠方など様々な家族環境にあり、家族の考え、利用者本人の気持ちを推し量ることは難しく、コロナ禍にあつてこまめに電話を入れることに努め、本人とともに書く年賀状や暑中見舞いも継続しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課面談、職員意向アンケートを通じて定期的に意見を聞く機会を設けている。管理者はリーダー会議を通して現場の把握に努めるとともに、月1回のアミーバ会議と施設連絡会議を通し、代表者や他部署へ意見や提案を伝える機会を設けている。他、外部からの苦情のみならず部署間の要望書を作成	3つのユニットのリーダーの和合に若い管理者が努めており、ユニットリーダーも期待に応え4名のチームワークバランスが高いことが職員の主体性を醸成しています。法人においてもタテ、ヨコの報連相を面談・会議・アンケートで構築して、盤石です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課評価・面談を実施し、次年度の昇給率に反映されている。労働時間等についてはアミーバ経営を通して法人全体で共有されており、年1回の職員意向調査を実施する事で職場環境・条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も、各職員が目標を持って業務に取り組める内容に配慮して		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	おり、入職後半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修ができるよう法人全体で整備されており、事業所内でも月1回活用している。人事考課制度でも職務チェックシートを作成し、職員のケアの力量把握に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同業者の訪問の機会はないが、書面での運営推進会議資料送付を継続している。法人でTwitterを開設し自法人の活動発信を行う他、同業者の情報を与えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談を行っているが、コロナ禍により事前に本人との面談を実施できないケースもあった。その場合はご家族や利用中の介護事業所から詳しく聞き取りを行い、事前情報を基に本人の様子や言動に気を配りながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時以外にも、入居突前前の準備段階でご家族へ電話をかけ、近況確認を行っている。入居前の事前面談にも可能な限り立ち会っていただき、直接要望をうかがっている。立ち会えない場合であっても、入居手続きや電話連絡で話をうかがい、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合いの場を設けている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談をしたりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に家事を行ったり、歌をうたったりと、暮らしを共にするもの同士の関係を気づいている。家事等の後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を設けているが、窓越し面会やテレビ電話での対応を行っている。必要に応じて電話やメール連絡で最近の様子や健康状態を報告している。連絡を密に行う事で、相談しやすい環境づくりを心がけ、共に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により例年のように外出や外泊を自由にしていただけないが、暑中見舞いや年賀状のやり取り他、キーパーソン以外からの電話の取り次ぎや窓越し面会の対応も行っている。	「声が…」と多少不備はあるものの、窓越し面会をおこなうことで、「まったく会えない」ということがないように配慮しています。また毎日炭酸栄養ドリンクを愛飲する人、お粥にふりかけをかけたい人と、これまでの趣味嗜好が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の利用者同士がゆっくり話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過を見守る他、月1回の会議で経過確認と情報共有・フォローを行っている。また、ご家族から相談があった場合も都度対応し、必要に応じて法人外施設へ連絡を行いフォローに努めている。退去時の清算明細を送付する際には、お礼の言葉を一筆添えて送付するように		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から、利用者が希望している生活や要望を把握するよう努めている。手作りご飯の際には利用者一人ひとりの食べたいものを聞いてメニューを決めている。看取り介護を行った際には本人の意思表示が困難であっても、お好きだった音楽を流したり、お好きな食べ物を可能な限り提供した	「外食が盛んだった泉館では手作りご飯に力を入れ、リクエストに応える」というように、コロナ禍でできないことの代替と利用者のストレス軽減を考えた取組みが増えています。看取りでは音楽を流したり、本人の好きなアイスで最期までもてなしてお見送りしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネージャー、大居前に利用していたサービス事業所へ聞き取りを行い、生活歴や馴染の暮らし・生活環境の把握に努めている。可能であれば自宅へ出向き、居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、ご家族様のメモ等を提供していただいで経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に状況把握に努めている。利用者ごとの申し送りファイルは生活面・医療面と内容によって色分けを行い、経過も含め把握しやすいよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認したり、ケア会議の場で担当職員が本人についての状態や課題を出し、話し合いを行っている。コロナ禍のためご家族との面談が実施できていないが、電話連絡でご家族へ意向確認を行い、計画作成担当者が中心となって意見をまとめている	入居から1ヶ月程は仮プランとして、慣れない場所での居心地の良さを職員が気持ちの一つにして関わっています。「日課を得手なもので構成する」「その人の個別な事を日常に1つ入れる」といった工夫を以て、パーソン・センタード・ケアが推進されています。	コロナ終息後には「援助内容の担当者」欄に家族や法人内の他事業所の利用者など、職員以外の人も入ると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について新たに気づいた事や行動の変化等を要連絡事項として記録し、共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、ケア会議で必要に応じた対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて希望に応じて入退きの引越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合等、入居前の賃貸住居の解約手続きを地域包括支援センターと連携して対応する等、柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ボランティアによる教室や地域の老人会・保育園と交流しながらの畑仕事を楽しみとなっているが、コロナ禍により現在中止となっているため、法人内保育園との芋掘りや収穫祭を楽しんでいる。社会福祉協議会主催のボランティア受け入れも行ったが、コロナ禍により中止となってしまった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内診療所による2週に1回の内科任診以外にも、必要時は医師へ報告・指示を受け対応している。診療所では皮膚科の対応も可能であり、適切な医療を受けやすい。利用者やご家族の希望に合わせ、法人外の医療も受けられるよう支援しており、必要に応じて紹介状を用意するなど連携をとっている。往	法人内の診療所が協力医です。利用者本人の受診は月に2回ですが、徒歩3分程の距離でもあり、診察日以外にもオンライン受診で状態を診てもらおうといったことが叶っています。またコロナ禍以前には状況や希望に応じて家族にも立ちあってもらっていました。	全ての分野において他事業所をリーディングする状況にあり、また法人内に医療機関があることの2点から、在所率を上げる等医療連携分野で新たなチャレンジがあることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。在籍看護師以外にも、法人内診療所との看護師とも連携を取り、医師への情報共有が取りやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況などを詳しく伝えている。コロナ禍のためお見舞いはできていないが、認知症の進行緩和のためにも医療関係者と情報交換を行って早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態変化に応じて早い段階から医師やご家族と話し合い、意向や方針を共有している。終末期に入る段階でご家族の意向確認を再度行い、付き添える環境を備えたり、希望に沿った介護計画を作り、本人が穏やかに最期まで過ごすことができるよう支援している。	此处1年で葵館1名、幸館2名のお見送りがあり、回廊式の構造にも助けられ、リビングで過ごす他の利用者とは接触することなく家族にも出入りしてもらっています。3名までとの人数制限はあったものの、家族も対応には納得くださり、感謝の言葉も届いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送等、速やかに対応できるよう医療情報ファイルの作成と緊急連絡簿を随時更新している。また、利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測される利用者については事前に医師から指示をもらい職員間で共有し、備えている。心肺蘇生やAEDの講習についても法人内に新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の操作説明も行っている。大規模災害時に備え、他法人と協力関係を築くなど法人全体として備えている。事業所内の備蓄は食品をローリングストック方式へ変更し、非常食を利用した食事提供も		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の操作説明も行っている。大規模災害時に備え、他法人と協力関係を築くなど法人全体として備えている。事業所内の備蓄は食品をローリングストック方式へ変更し、非常食を利用した食事提供も	敷地内の他事業所と合同で水消器体験をおこない、利用者からも「楽しい」の声が挙がっています。広い敷地内には井戸水もあり、携帯電話への一斉配信による安否確認や備蓄の多様化が進み、またBCPの見直しは法人がおこなう等、体制を整えています。	次の2点を期待します。①新採にはその日に避難経路や誘導ポイントを説明する。②職員の習熟度を一覧にして「できる」状態になるまでシフト調整などで支援する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。また、何かをしてくださった際には必ずお礼を伝えるように心がけている。利用者個々に合わせて同性介助としたり、本人がお一人で着替えができるようセッティングを工夫したりしている。また、歩行が難しくなった方でも、歩きたい気持ちを尊重	できることは自分でおこなうことでADLを維持して欲しい反面、できないことで悩み混乱することは避けたいとして、着脱の衣類を入れる籠を備えたり、衣類の前方に赤いボタンやリボンを取り付ける等、現在の見識で本人が対応できるよう支えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でも本人の希望を聞くことができるため、利用者との会話を大切にしている。本人の思いや希望を表現しやすいよう傾聴に努め、認知症が進行した方や失語症の方には選択肢を出す等、表現しやすい対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や時間をずらして対応する等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人・ご家族の希望で日常的に化粧水・乳液・お化粧をしたり、おしゃれ好きな方には誕生日に装飾品をプレゼントしたりと、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあつたかたちで食事の準備や片付けに参加して頂いている。利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、季節に合わせて屋台風のメニューにしたりと工夫している。敷地内の野菜や果物の収穫から調理までを利用者と一緒に楽しむ事もある	ケイタリングで届いた惣菜を温め、盛り付けて提供しています。毎食の配膳、下膳のほか、調理レクでは利用者が主役となって仕切る場面もあります。食事前に口紅を塗り直す利用者もおり、本人の気持ちを尊重して味より「気持ちよさ」を優先する例もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託先の栄養士が考え、バランス良い食事を提供している。日々の食事・水分摂取量や食事の様子確認し、状態の変化に応じて食形態を見直したり、食が進まない方には口当たりの良いものやお好きな物を提供する等、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の来館があり、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。治療が必要な場合でも、可能な限り訪問診療で対応している。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいたあと、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きをさせていただいたり、歯間ブラシをすすめたりと、本人		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながらトイレへお誘いする等、時間に固執せず、個々に合わせた対応を行っている。自然な排泄を促すため勉強会を行ったり、失禁の状態を把握して紙パンツから布パンツへ変更したりと、自立支援に向けて取り組んでいる。	自然排便を促すためにも「歩く」とこと、「水分」摂取に気遣い、記録を残して変調を観察しています。排泄状況が向上することは「本人が気持ちよく」「家族も経済的負担が軽減」「職員も介助が楽となる」ことから、こまめに対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援介護の一環として、水分量の確保と歩行の機会を設ける等、チェック表に記録しながら自然排便に向けて取り組みを行っている。乳製品や果物、食物繊維を摂っていたり、腹部マッサージを行う等、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて入浴日や時間を変更したり、同性介助による対応他、好みのシャンプーや洗顔を使用していただき、できる限り希望に添えるよう支援している。入浴剤を数種類用意して本人に選んでいただいたり、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯にしている。入浴嫌いな方には、散歩等で気分転換して個々の生活習慣や、その時々体調や気分によって休息・就寝していただいている。室温や照明の調整他、寝つきの悪い方の居室にはアロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ち良く眠れるよう支援している。夜間不眠の方には日中の活動量増加に努めたり、日中入浴時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、情報共有して経過を確認し、次回往診時に必ず報告している。	葵館では色分けしたボトルに入れ替えてMY浴剤を備え、泉館では柚子湯にはじまり薔薇やみかんの皮を浮かべ、ティーバックでお茶風呂を堪能することもあり、かわり湯に挑戦して非日常を愉しんでいます。幸館でも菖蒲や柚子の時節風呂に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明の調整他、寝つきの悪い方の居室にはアロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ち良く眠れるよう支援している。夜間不眠の方には日中の活動量増加に努めたり、日中入浴時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、情報共有して経過を確認し、次回往診時に必ず報告している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、情報共有して経過を確認し、次回往診時に必ず報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭で野菜等を作り、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。スイカ割り等の季節に合わせたレクリエーション他、裁縫や工作など、一人ひとりの力を活かした活動を日常的に行っている。タブレットを活用し、趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により公共の場への外出はできないが、利用者のリクエストで海を見に浜名湖ヘドライブへ出かけたり、話題のソフトクリームを食べに出かけたりと、可能な範囲で車で外出している。	外出しにくい日が続きますが「訪問リハビリテーション」の利用で自立支援につなげ、ベッドの横臥から四つん這い、手引き歩行と向上した例もあります。泉館ではテーブルをつなげて卓球が白熱、他の館からも対戦相手が参上して、盛り上がっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、買い物等の支払いは希望やレベルに応じて本人が支払いできるように支援している。また、現金を持っていないと不安な方には、少額だがお財布を持っていただき、安心できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いが出せるよう支援している。希望に応じて居室に固定電話を設けたり、携帯電話を持参していただき、好きな時に電話ができるよう支援している。コロナ禍で開始したテレビ電話での面会も継続しており、遠方で来館できないご家族に喜んでいただけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回リビングの室温・湿度を確認し、冷暖房の調整を行ったり、外気を取り入れたりと、心地よく過ごせるようにしている。日々換気をしっかりと行っており、不快な臭いや感染の予防となっている。季節ごとに利用者の工作やフラワーアレンジメントの作品を飾り、利用者の自信や自慢に繋がるようにしている。	古くなった換気扇を10台入れ替え、感染症対策も含み全体のエアコンの修繕工事とともに居室のエアコンも買い替えています。冷房の風を嫌がる利用者のために扇風機とサーキュレーターも購入、快適空間の追求に余念がありません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう配慮したりと、日頃から話しやすいようにしている。廊下・玄関・玄関先ベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等はできるだけ使いなれた馴染みの物を持参していただいている。また、ご家族に相談してアルバム写真や好みの室内装飾品などを置いていただき、自宅に近い居住空間をつくるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでいただいている。	車いす利用の人が1名、手引き歩行が必要な人が5名いますが、看取りが続いたため利用者の入れ替わりがあり、平均介護度は2.4です。それでも介助がしやすいようにベッドの向きを変えたり、2人介助が必要なときは中央に置くなど、随時工夫を施しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できる環境であるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を見ながら必要な時に手助けにうかがえる環境となっている。トイレの広さも一般的なものと、車椅子対応のものもあり、本人のレベルに応じて使い分けてい		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(泉館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	true&ji_gyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan>true&ji_gyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により敷地内の畑を利用した、老人会や近隣の保育園児との交流が難しい状況となったため、法人敷地内にある保育園児と芋掘りを行ったり、焼き芋を一緒に楽しむなど、立地環境の利点を活かして地域とのつながりを継続できるよう努めています。また、敷地内で収穫した梅や無花果でおやつ作りをしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の敷くアメンバー経営とクレドの浸透は事業所の取組みの至る点に表れており、特に職員の主体性は年を追うごとに前進が見られ、安心感に満ちる事業所です。第三者がその成果の多くを確認できるのが、運営推進会議におけるデータと2ヶ月分の利用者の姿が写真に収められたもの、そしてその内容に寄せるメンバーの温かな応援の言葉です。七夕の短冊を嬉しそうに見せ、ゲームやフラワーアレンジメントに興じ、皆でつくった餃子をホットプレートに並べたり、茄子やヘチマの収穫、得意げに針を使いこなす指先etc.のいずれにも有用感が滲む微笑みがあり、おどけた声や高らかないざないの言葉が聞こえてきそうです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆつたり、よりそって」という法人理念を基に行動指針をクレドとして職員全員へ配布し、入職時の研修も行っている。クレドの内容を毎月の目標とかかげ、理念の共有と理解を深めている。また、人事考課制度の見直しを行い、クレドを基にした行動評価表へ変更し、職員一人ひとりがクレドを実践できて		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により今年度も小中学生や老人会との定期交流は中止となってしまったが、法人内の保育園との芋掘りと焼き芋を楽しむ機会を設けた。社協主催の夏休みチャレンジボランティアの受入れを行ったが、市内のコロナ感染拡大により途中中止となってしまった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年では地域の専門学校の実習、中学生の職場体験学習で認知症について学んでいたたり、法人内で連携して民生委員を招いた施設見学会を行っているが、今年度もコロナ禍で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面開催を継続している。利用者の入退去他、稼働率を含めた定期的な資料の送付他、苦情や事故件数他、職員の入退職も含めて報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れをしているため、必要に応じて社会福祉課とも連携をとっている。また、虐待事例や金銭トラブルを抱えたケース等、地域包括支援センターと連携しながら対応を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会開催と委員会を設置している。法人による入職時の研修他、事業所内でリモート研修の実施やケア会議での伝達研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。不適切ケアに繋がらないよう、会議録に身体拘束が疑われる事例なども掲載し、意識向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	例年、法人研修の機会を設けているが、コロナ禍により中止となっている。事業所内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で虐待事例を調べたり、リモート研修を行い虐待防止への意識を共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。社協による日常生活自立支援事業も必要に応じて活用しているが、現在の利用はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更になった際には、その都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍によりご家族の来館制限を継続している状況であるが、利用者の状態の変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡で説明を行い、意見や要望を聞くことができている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課面談、職員意向アンケートを通じて定期的に意見を聞く機会を設けている。管理者はリーダー会議を通して現場の把握に努めるとともに、月1回のアミーバ会議と施設連絡会議を通し、代表者や他部署へ意見や提案を伝える機会を設けている。他、外部からの苦情のみならず部署間の要望書を作成		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課評価・面談を実施し、次年度の昇給率に反映されている。労働時間等についてはアミーバ経営を通して法人全体で共有されており、年1回の職員意向調査を実施する事で職場環境・条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も、各職員が目標を持って業務に取り組める内容に配慮して		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	おり、入職後半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修ができるよう法人全体で整備されており、事業所内でも月1回活用している。人事考課制度でも職務チェックシートを作成し、職員のケアの力量把握に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同業者の訪問の機会はないが、書面での運営推進会議資料送付を継続している。法人でTwitterを開設し自法人の活動発信を行う他、同業者の情報をえている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談を行っているが、コロナ禍により事前に本人との面談を実施できないケースもあった。その場合はご家族や利用中の介護事業所から詳しく聞き取りを行い、事前情報を基に本人の様子や言動に気を配りながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時以外にも、入居突前前の準備段階でご家族へ電話をかけ、近況確認を行っている。入居前の事前面談にも可能な限り立ち会っていただき、直接要望をうかがっている。立ち会えない場合であっても、入居手続きや電話連絡で話をうかがい、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合いの場を設けている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談をしたりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に家事を行ったり、歌をうたったりと、暮らしを共にするもの同士の関係を気づいている。家事等の後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を設けているが、窓越し面会やテレビ電話での対応を行っている。必要に応じて電話やメール連絡で最近の様子や健康状態を報告している。連絡を密に行う事で、相談しやすい環境づくりを心がけ、共に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により例年のように外出や外泊を自由にしていただけないが、暑中見舞いや年賀状のやり取り他、キーパーソン以外からの電話の取り次ぎや窓越し面会の対応も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の利用者同士がゆっくり話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過を見守る他、月1回の会議で経過確認と情報共有・フォローを行っている。また、ご家族から相談があった場合も都度対応し、必要に応じて法人外施設へ連絡を行いフォローに努めている。退去時の清算明細を送付する際には、お礼の言葉を一筆添えて送付するように		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から、利用者が希望している生活や要望を把握するよう努めている。手作りご飯の際には利用者一人ひとりの食べたいものを聞いてメニューを決めている。看取り介護を行った際には本人の意思表示が困難であっても、お好きだった音楽を流したり、お好きな食べ物を可能な限り提供した		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネージャー、大居前に利用していたサービス事業所へ聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし・生活環境の把握に努めている。可能であれば自宅へ出向き、居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、ご家族様のメモ等を提供していただいで経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に状況把握に努めている。利用者ごとの申し送りファイルは生活面・医療面と内容によって色分けを行い、経過も含め把握しやすいよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話やミーティングの際に本人の意向を確認したり、ケア会議の場で担当職員が本人についての状態や課題を出し、話し合いを行っている。コロナ禍のためご家族との面談が実施できていないが、電話連絡でご家族へ意向確認を行い、計画作成担当者が中心となって意見をまとめている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について新たに気づいた事や行動の変化等を要連絡事項として記録し、共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、ケア会議で必要に応じた対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて希望に応じて入退去の引越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合等、入居前の賃貸住居の解約手続きを地域包括支援センターと連携して対応する等、柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ホフンティアによる教室や地域の老人会・保育園と交流しながらの畑仕事を楽しみとなっているが、コロナ禍により現在中止となっているため、法人内保育園との芋掘りや収穫祭を楽しんでいる。社会福祉協議会主催のボランティア受け入れも行っているが、コロナ禍により中止となってしまった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内診療所による2週に1回の内科任診以外にも、必要時は医師へ報告・指示を受け対応している。診療所では皮膚科の対応も可能であり、適切な医療を受けやすい。利用者やご家族の希望に合わせ、法人外の医療も受けられるよう支援しており、必要に応じて紹介状を用意するなど連携をとっている。往		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。在籍看護師以外にも、法人内診療所との看護師とも連携を取り、医師への情報共有が取りやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち会い、医療機関へ生活状況などを詳しく伝えている。コロナ禍のためお見舞いはできていないが、認知症の進行緩和のためにも医療関係者と情報交換を行って早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態変化に応じて早い段階から医師やご家族と話し合い、意向や方針を共有している。終末期に入る段階でご家族の意向確認を再度行い、付き添える環境を備えたり、希望に沿った介護計画を作り、本人が穏やかに最期まで過ごす事ができるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送等、速やかに対応できるよう医療情報ファイルの作成と緊急連絡簿を随時更新している。また、利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測される利用者については事前に医師から指示をもらい職員間で共有し、備えている。心肺蘇生やAEDの講習についても法人内に新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の操作説明も行っている。大規模災害時に備え、他法人と協力関係を築くなど法人全体として備えている。事業所内の備蓄は食品をローリングストック方式へ変更し、非常食を利用した食事提供も		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の操作説明も行っている。大規模災害時に備え、他法人と協力関係を築くなど法人全体として備えている。事業所内の備蓄は食品をローリングストック方式へ変更し、非常食を利用した食事提供も		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。また、何かをしてくださった際には必ずお礼を伝えるように心がけている。利用者個々に合わせて同性介助としたり、本人がお一人で着替えができるようセッティングを工夫したりしている。また、歩行が難しくなった方でも、歩きたい気持ちを尊重		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でも本人の希望を聞くことができるため、利用者との会話を大切にしている。本人の思いや希望を表現しやすいよう傾聴に努め、認知症が進行した方や失語症の方には選択肢を出す等、表現しやすい対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や時間をずらして対応する等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人・ご家族の希望で日常的に化粧品・乳液・お化粧品をしたり、おしゃれ好きな方には誕生日に装飾品をプレゼントしたりと、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあつたかたちで長事の準備や片付けに参加して頂いている。利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、季節に合わせて屋台風のメニューにしたりと工夫している。敷地内の野菜や果物の収穫から調理までを利用者と一緒に楽しむ事もある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託先の栄養士が考え、バランス良い食事を提供している。日々の食事・水分摂取量や食事の様子確認し、状態の変化に応じて食形態を見直したり、食が進まない方には口当たりの良いものやお好きな物を提供する等、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の来館があり、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。治療が必要な場合でも、可能な限り訪問診療で対応している。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいたあと、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きをさせていただいたり、歯間ブラシをすすめたりと、本人		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながらトイレへお誘いする等、時間に固執せず、個々に合わせた対応を行っている。自然な排泄を促すため勉強会を行ったり、失禁の状態を把握して紙パンツから布パンツへ変更したりと、自立支援に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援介護の一環として、水分量の確保と歩行の機会を設ける等、チェック表に記録しながら自然排便に向けて取り組みを行っている。乳製品や果物、食物繊維を摂っていたり、腹部マッサージを行う等、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて入浴日や時間を変更したり、同性介助による対応他、好みのシャンプーや洗顔を使用していただき、できる限り希望に添えるよう支援している。入浴剤を数種類用意して本人に選んでいただいたり、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯にしている。入浴嫌いな方には、散歩等で気分転換して		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その時々体調や気分によって休息・就寝していただいている。室温や照明の調整他、寝つきの悪い方の居室にはアロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ち良く眠れるよう支援している。夜間不眠の方には日中の活動量増加に努めたり、日中		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	任診時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、情報共有して経過を確認し、次回往診時に必ず報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭で野菜等を作り、役割として水やりをいただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。スイカ割り等の季節に合わせたレクリエーション他、裁縫や工作など、一人ひとりの力を活かした活動を日常的に行っている。タブレットを活用し、趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により公共の場への外出はできないが、利用者のリクエストで海を見に浜名湖ヘドライブへ出かけたり、話題のソフトクリームを食べに出かけたりと、可能な範囲で車で外出している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、買い物等の支払いは希望やレベルに応じて本人が支払いできるように支援している。また、現金を持っていないと不安な方には、少額だがお財布を持っていただき、安心できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いが出せるよう支援している。希望に応じて居室に固定電話を設けたり、携帯電話を持参していただき、好きな時に電話ができるよう支援している。コロナ禍で開始したテレビ電話での面会も継続しており、遠方で来館できないご家族に喜んでいただけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回リビングの室温・湿度を確認し、冷暖房の調整を行ったり、外気を取り入れたりと、心地よく過ごせるようにしている。日々換気をしっかりと行っており、不快な臭いや感染の予防となっている。季節ごとに利用者の工作やフラワーアレンジメントの作品を飾り、利用者の自信や自慢に繋がるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう配慮したりと、日頃から話しやすいようにしている。廊下・玄関・玄関先ベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等はできるだけ使いなれた馴染みの物を持参していただいている。また、ご家族に相談してアルバム写真や好みの室内装飾品などを置いていただき、自宅に近い居住空間をつくるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できる環境であるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を見ながら必要な時に手助けにうかがえる環境となっている。トイレの広さも一般的なものと、車椅子対応のものもあり、本人のレベルに応じて使い分けてい		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(幸館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	true&ji_gyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan>true&ji_gyosyoCd=2277100588-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により敷地内の畑を利用した、老人会や近隣の保育園児との交流が難しい状況となったため、法人敷地内にある保育園児と芋掘りを行ったり、焼き芋を一緒に楽しむなど、立地環境の利点を活かして地域とのつながりを継続できるよう努めています。また、敷地内で収穫した梅や無花果でおやつ作りをしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の敷くアメンバー経営とクレドの浸透は事業所の取組みの至る点に表れており、特に職員の主体性は年を追うごとに前進が見られ、安心感に満ちる事業所です。第三者がその成果の多くを確認できるのが、運営推進会議におけるデータと2ヶ月分の利用者の姿が写真に収められたもの、そしてその内容に寄せるメンバーの温かな応援の言葉です。七夕の短冊を嬉しそうに見せ、ゲームやフラワーアレンジメントに興じ、皆でつくった餃子をホットプレートに並べたり、茄子やヘチマの収穫、得意げに針を使いこなす指先etc.のいずれにも有用感が滲む微笑みがあり、おどけた声や高らかないざないの言葉が聞こえてきそうです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆつたり、よりそって」という法人理念を基に行動指針をクレドとして職員全員へ配布し、入職時の研修も行っている。クレドの内容を毎月の目標とかかげ、理念の共有と理解を深めている。また、人事考課制度の見直しを行い、クレドを基にした行動評価表へ変更し、職員一人ひとりがクレドを実践できて		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により今年度も小中学生や老人会との定期交流は中止となってしまったが、法人内の保育園との芋掘りと焼き芋を楽しむ機会を設けた。社協主催の夏休みチャレンジボランティアの受入れを行ったが、市内のコロナ感染拡大により途中中止となってしまった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年では地域の専門学校の実習、中学生の職場体験学習で認知症について学んでいたいたり、法人内で連携して民生委員を招いた施設見学会を行っているが、今年度もコロナ禍で実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面開催を継続している。利用者の入退去他、稼働率を含めた定期的な資料の送付他、苦情や事故件数他、職員の入退職も含めて報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れをしているため、必要に応じて社会福祉課とも連携をとっている。また、虐待事例や金銭トラブルを抱えたケース等、地域包括支援センターと連携しながら対応を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会開催と委員会を設置している。法人による入職時の研修他、事業所内でリモート研修の実施やケア会議での伝達研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。不適切ケアに繋がらないよう、会議録に身体拘束が疑われる事例なども掲載し、意識向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	例年、法人研修の機会を設けているが、コロナ禍により中止となっている。事業所内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で虐待事例を調べたり、リモート研修を行い虐待防止への意識を共有している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。社協による日常生活自立支援事業も必要に応じて活用しているが、現在の利用はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更になった際には、その都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍によりご家族の来館制限を継続している状況であるが、利用者の状態の変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡で説明を行い、意見や要望を聞くことができている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課面談、職員意向アンケートを通じて定期的に意見を聞く機会を設けている。管理者はリーダー会議を通して現場の把握に努めるとともに、月1回のアミーバ会議と施設連絡会議を通し、代表者や他部署へ意見や提案を伝える機会を設けている。他、外部からの苦情のみならず部署間の要望書を作成		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課評価・面談を実施し、次年度の昇給率に反映されている。労働時間等についてはアミーバ経営を通して法人全体で共有されており、年1回の職員意向調査を実施する事で職場環境・条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も、各職員が目標を持って業務に取り組める内容に配慮して		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	おり、入職後半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修ができるよう法人全体で整備されており、事業所内でも月1回活用している。人事考課制度でも職務チェックシートを作成し、職員のケアの力量把握に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により同業者の訪問の機会はないが、書面での運営推進会議資料送付を継続している。法人でTwitterを開設し自法人の活動発信を行う他、同業者の情報をえている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面談を行っているが、コロナ禍により事前に本人との面談を実施できないケースもあった。その場合はご家族や利用中の介護事業所から詳しく聞き取りを行い、事前情報を基に本人の様子や言動に気を配りながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時以外にも、入居突前前の準備段階でご家族へ電話をかけ、近況確認を行っている。入居前の事前面談にも可能な限り立ち会っていただき、直接要望をうかがっている。立ち会えない場合であっても、入居手続きや電話連絡で話をうかがい、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合いの場を設けている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談をしたりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に家事を行ったり、歌をうたったりと、暮らしを共にするもの同士の関係を気づいている。家事等の後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を設けているが、窓越し面会やテレビ電話での対応を行っている。必要に応じて電話やメール連絡で最近の様子や健康状態を報告している。連絡を密に行う事で、相談しやすい環境づくりを心がけ、共に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により例年のように外出や外泊を自由にしていただけないが、暑中見舞いや年賀状のやり取り他、キーパーソン以外からの電話の取り次ぎや窓越し面会の対応も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の利用者同士がゆっくり話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過を見守る他、月1回の会議で経過確認と情報共有・フォローを行っている。また、ご家族から相談があった場合も都度対応し、必要に応じて法人外施設へ連絡を行いフォローに努めている。退去時の清算明細を送付する際には、お礼の言葉を一筆添えて送付するように		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から、利用者が希望している生活や要望を把握するよう努めている。手作りご飯の際には利用者一人ひとりの食べたいものを聞いてメニューを決めている。看取り介護を行った際には本人の意思表示が困難であっても、お好きだった音楽を流したり、お好きな食べ物を可能な限り提供した		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネージャー、大居前に利用していたサービス事業所へ聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし・生活環境の把握に努めている。可能であれば自宅へ出向き、居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、ご家族様のメモ等を提供していただいで経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に状況把握に努めている。利用者ごとの申し送りファイルは生活面・医療面と内容によって色分けを行い、経過も含め把握しやすいよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話やミーティングの際に本人の意向を確認したり、ケア会議の場で担当職員が本人についての状態や課題を出し、話し合いを行っている。コロナ禍のためご家族との面談が実施できていないが、電話連絡でご家族へ意向確認を行い、計画作成担当者が中心となって意見をまとめている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について新たに気づいた事や行動の変化等を要連絡事項として記録し、共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、ケア会議で必要に応じた対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて希望に応じて入退去の引越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合等、入居前の賃貸住居の解約手続きを地域包括支援センターと連携して対応する等、柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ホフンティアによる教室や地域の老人会・保育園と交流しながらの畑仕事を楽しみとなっているが、コロナ禍により現在中止となっているため、法人内保育園との芋掘りや収穫祭を楽しんでいる。社会福祉協議会主催のボランティア受け入れも行っているが、コロナ禍により中止となってしまった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内診療所による2週に1回の内科任診以外にも、必要時は医師へ報告・指示を受け対応している。診療所では皮膚科の対応も可能であり、適切な医療を受けやすい。利用者やご家族の希望に合わせ、法人外の医療も受けられるよう支援しており、必要に応じて紹介状を用意するなど連携をとっている。往		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。在籍看護師以外にも、法人内診療所との看護師とも連携を取り、医師への情報共有が取りやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち会い、医療機関へ生活状況などを詳しく伝えている。コロナ禍のためお見舞いはできていないが、認知症の進行緩和のためにも医療関係者と情報交換を行って早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態変化に応じて早い段階から医師やご家族と話し合い、意向や方針を共有している。終末期に入る段階でご家族の意向確認を再度行い、付き添える環境を備えたり、希望に沿った介護計画を作り、本人が穏やかに最期まで過ごす事ができるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送等、速やかに対応できるよう医療情報ファイルの作成と緊急連絡簿を随時更新している。また、利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測される利用者については事前に医師から指示をもらい職員間で共有し、備えている。心肺蘇生やAEDの講習についても法人内に新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の操作説明も行っている。大規模災害時に備え、他法人と協力関係を築くなど法人全体として備えている。事業所内の備蓄は食品をローリングストック方式へ変更し、非常食を利用した食事提供も		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の操作説明も行っている。大規模災害時に備え、他法人と協力関係を築くなど法人全体として備えている。事業所内の備蓄は食品をローリングストック方式へ変更し、非常食を利用した食事提供も		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。また、何かをしてくださった際には必ずお礼を伝えるように心がけている。利用者個々に合わせて同性介助としたり、本人がお一人で着替えができるようセッティングを工夫したりしている。また、歩行が難しくなった方でも、歩きたい気持ちを尊重		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でも本人の希望を聞くことができるため、利用者との会話を大切にしている。本人の思いや希望を表現しやすいよう傾聴に努め、認知症が進行した方や失語症の方には選択肢を出す等、表現しやすい対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や時間をずらして対応する等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人・ご家族の希望で日常的に化粧品・乳液・お化粧品をしたり、おしゃれ好きな方には誕生日に装飾品をプレゼントしたりと、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあつたかたちで長事の準備や片付けに参加して頂いている。利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、季節に合わせて屋台風のメニューにしたりと工夫している。敷地内の野菜や果物の収穫から調理までを利用者と一緒に楽しむ事もある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託先の栄養士が考え、バランス良い食事を提供している。日々の食事・水分摂取量や食事の様子確認し、状態の変化に応じて食形態を見直したり、食が進まない方には口当たりの良いものやお好きな物を提供する等、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の来館があり、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。治療が必要な場合でも、可能な限り訪問診療で対応している。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいたあと、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きをさせていただいたり、歯間ブラシをすすめたりと、本人		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながらトイレへお誘いする等、時間に固執せず、個々に合わせた対応を行っている。自然な排泄を促すため勉強会を行ったり、失禁の状態を把握して紙パンツから布パンツへ変更したりと、自立支援に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援介護の一環として、水分量の確保と歩行の機会を設ける等、チェック表に記録しながら自然排便に向けて取り組みを行っている。乳製品や果物、食物繊維を摂っていたり、腹部マッサージを行う等、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて入浴日や時間を変更したり、同性介助による対応他、好みのシャンプーや洗顔を使用していただき、できる限り希望に添えるよう支援している。入浴剤を数種類用意して本人に選んでいただいたり、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯にしている。入浴嫌いな方には、散歩等で気分転換して		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、その時々体調や気分によって休息・就寝していただいている。室温や照明の調整他、寝つきの悪い方の居室にはアロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ち良く眠れるよう支援している。夜間不眠の方には日中の活動量増加に努めたり、日中		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	任診時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、情報共有して経過を確認し、次回往診時に必ず報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭で野菜等を作り、役割として水やりをいただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。スイカ割り等の季節に合わせたレクリエーション他、裁縫や工作など、一人ひとりの力を活かした活動を日常的に行っている。タブレットを活用し、趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により公共の場への外出はできないが、利用者のリクエストで海を見に浜名湖ヘドライブへ出かけたり、話題のソフトクリームを食べに出かけたりと、可能な範囲で車で外出している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、買い物等の支払いは希望やレベルに応じて本人が支払いできるように支援している。また、現金を持っていないと不安な方には、少額だがお財布を持っていたいただき、安心できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いが出せるよう支援している。希望に応じて居室に固定電話を設けたり、携帯電話を持参していただき、好きな時に電話ができるよう支援している。コロナ禍で開始したテレビ電話での面会も継続しており、遠方で来館できないご家族に喜んでいただけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回リビングの室温・湿度を確認し、冷暖房の調整を行ったり、外気を取り入れたりと、心地よく過ごせるようにしている。日々換気をしっかりと行っており、不快な臭いや感染の予防となっている。季節ごとに利用者の工作やフラワーアレンジメントの作品を飾り、利用者の自信や自慢に繋がるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう配慮したりと、日頃から話しやすいようにしている。廊下・玄関・玄関先ベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等はできるだけ使いなれた馴染みの物を持参していただいている。また、ご家族に相談してアルバム写真や好みの室内装飾品などを置いていただき、自宅に近い居住空間をつくるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できる環境であるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を見ながら必要な時に手助けにうかがえる環境となっている。トイレの広さも一般的なものと、車椅子対応のものもあり、本人のレベルに応じて使い分けてい		